

【ソーシャルディスタンスの影響とストレス物質】

課題 1-1: ヒト・機械の状態把握のための化学センシング
 早稲田大学 逢坂哲彌/大橋啓之

<p>解決すべき課題</p> <p>・テレワーク化できない業務で求められているマスクやフェイスシールドの着用およびソーシャルディスタンスによる業務スタイルの変化により、職場および社会に新たな強い精神的ストレスが現れた。特に、職場におけるQoW（仕事の質）の低下は社会全体にとって大きな問題となりつつある。</p>	<p>イメージ図</p>  <p>例えば接客業における、従業員および客の両方に対するソーシャルディスタンスの手段と効果を、その場でのストレス物質の量として定量化する。</p>
<p>解決手段・方法</p> <p>・新型コロナウイルスへの不安に基づくストレス（これは医学的に解決するしかない）と、業務スタイルによるストレス（これは分析により改善可能）を定量的に切り分けた解析を行い、業務改善に役立つ Harmoware ベースの手段を提供する。</p> <p>・そのために、本プロジェクトで開発した唾液ストレスマーカセンサを活用した負荷・実証実験を、心理学および労働医学の専門家を含む共同研究で行う。</p>	<p>本技術のポテンシャル（有用性・国際的状況）</p> <p>・コルチゾールを含む複数の唾液ストレスマーカーをその場で簡便に検出する方法は世界に類例がなく、この方法を緊急の課題であるWith/afterコロナ時代におけるストレス問題に速やかに適用することは社会的に極めて有用だと考える。</p>
<p>得られる価値</p> <p>・With/afterコロナ時代における業務スタイルの違いによるストレス物質分泌の違いから QoW を高めるストレスコーピング手段を見出す。</p> <p>・これにより、より良い仕事スタイルを探る手段を提供する。</p>	